

(様式 4)

平成 27 年度 日 立 市 教 育 研 究 会 先 進 校 等 調 査 派 遣 研 修 報 告 書

日 立 市 立 山 部 小 学 校 教 諭 川 田 貞 子

- 1 派遣期日 平成 27 年 11 月 14 日 (土)
- 2 研修先 学校名 神奈川県横浜市立白幡小学校
所在地 神奈川県横浜市神奈川区白幡上町 1-1-1
- 3 研修内容

国立教育政策研究所 横浜市教育委員会 研究指定 平成 27 年度 研究発表会 研究主題 21 世紀グローバル社会に必要な豊かに学び合う力の育成 ～アクティブ・ラーニングの能力を育成し、活用するカリキュラムの開発～

(1) 白幡小学校の研究内容

- ① 得た知識や技能を次の学習や生活に活用する力の育成
～思考力・判断力・表現力の育成に焦点を当てた授業研究～

ア 単元構造

- ・課題解決的な展開・単元の見通しと振り返りの位置づけ

イ 自主的で思考が高まる学習活動

- ・指導案の工夫

ウ 一単位時間の展開

- ・言語操作・思考操作を伴う協働学習の位置づけ

エ 個が高まる協働学習へ質的改善

- ・目的の自覚

何のために話し合うか、意見を出した後から話し合い、協議と討論

- ・「KWLチャート」の活用

知っていること (K) 見つけたいこと (W) 学んだこと (L)

- ・協働学習の仕方

やさしい話し方・あたたかい聞き方・役割の指導

- ・課題の質を高める

豊かな単元の導入・既知への揺さぶり・学習の必要性・課題意識の高揚

課題解決のために自分は何を知っていて何がわからないのかを明確にする

- ・様式の自覚

感想・説明・紹介・推薦・解明・解説・提案・報告

- ・可視化ツールの活動

ミニホワイトボード・グループ用シート・タブレットなど

- ・シンキングツールの活用

付箋・短冊画用紙・マーカー・マグネットなど

- ・パーソナルワークとグループワークとクラスワークの関係

分からないことを聞く・相違点や矛盾点を追及する

グループで発見したことの提案・みんなで考えてほしい疑問の提示

- ・机の配置

目的に応じて机の配置も自主的に考えられるようにする

- ・時間の意識

限られた時間で計画的に話し合いを進める力を育てる

オ 「踊り場」…子ども及び教師が学びの定着度を確かめ合い、さらに高め合う場面

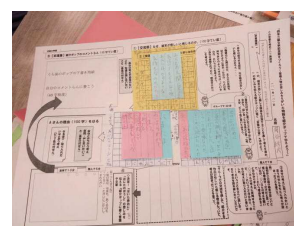
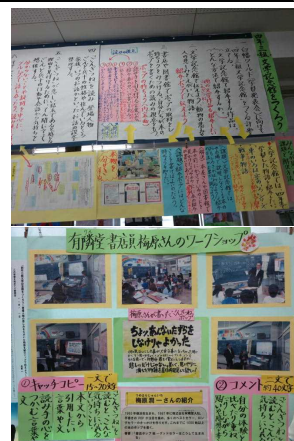
- ・協働学習中に足りないことがあったら、司会団がパーソナルワークのやり直しを提案

- ・学習のまとめで足りないことがあったら、教師がかかわり補充、類題演習など

カ 「PWCシート」の活用

- ・Point シート…ラーニングスキル、各教科の汎用的能力をまとめて活用

- ・Work シート ・ Check シート



② 自主的学習力の育成・系統性

ア 児童による司会と板書

イ ラーニングスキルの習得と活用

・「教科等を貫く基盤となる自主的学習力（学び方や考え方）や言語能力」を再構築

ウ 活用ファイル・単元ファイルに蓄積・整理

エ カリキュラムポスターの改善

オ 基礎基本の定着 単元間の補充 要点シートの活用

③ 得た知識を活用し、グローバル化に対応する言語環境・ICT環境の整備と活性化

ア 掲示物の改善

イ 語彙指導…語彙表の掲示

ウ 板書マグネットの活用

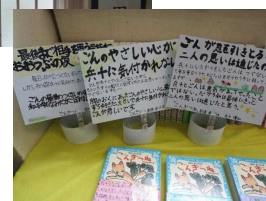
エ 学校図書館の改造

オ グローバルな言語環境

カ ICT環境・タブレット

キ 読書環境・ブックボックス・ブックウォーク・マイ辞書

ク 成果物の展示コーナー



(2) 記念講演「アクティブ・ラーニングを具現化する一課題と改革」より

京都女子大学発達教育学部教授

前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 井上 一郎 先生

- 必要な力を子どもたちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある。
- アクティブ・ラーニングは教師の改革である。教師主導型ではなく学習者中心へ、教え方は学び方を支援する教え方へ転換される。
- 到達すべきは、予定された知識・技能ではなく（知識優先ではなく）、学習者自らが課題解決しながら、知識・技能を駆使し、発見し、各自の知識・技能に体系化された状態となる。
- 目の前の問題に対して、これまでに獲得した知識や技能だけでは必ずしも十分ではないという問題意識を生じさせ、自ら考えた課題をもたせることが重要。
- 主体的・協働的な学びにパーソナルワークは欠かせない。ラーニングスキル・シンキングスキル（解き方・プロセス）を身に付けさせ、自分の考えをどのように書いたら良いか身に付けさせる。
- 全国学力・学習状況調査…対処療法的になっていないか。
パーソナルワーク中に丸つけしていないか。
教師が問題を読んでいないか。

(3) パネルディスカッション「アクティブ・ラーニング時代の学校創り&単元創り」

前川喜平氏 井上一郎先生 樺山敏郎先生 他

4 感想

今回の研修で、アクティブ・ラーニングの能力を育成することの重要性を改めて感じた。本校の課題である「思考・判断・表現力」を高めるために、知識・技能を活用する力を育てる指導の在り方として、白幡小学校の取り組みは大変参考になった。児童が、知識・技能を活用しながら主体的に学習を進めるには、児童自身が、「自分は何がわかっていて、何がわかっていないのか」を自覚し、「課題解決のためには、何を学習しなければいけないのか」など、自らの課題をしっかりとたてることが重要なポイントとなると思った。また、学び合いを通して身につく力も大きい。学校全体の取り組みとして、今回の研修を生かしながら授業づくりを進め、児童の学びの質を高めていきたい。